

令和6年度（2学年用）

教科 家庭科

科目 家庭総合

教科： 家庭科 科目： 家庭総合

単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 6 組

教科担当者：（1組：樋口・中根）（2組：芝野・樋口）（3組：芝野・樋口）（4組：樋口・中根）（5組：芝野・樋口）（6組：芝野・中根）

使用教科書：（「家総703家庭総合」 実教出版）

教科 家庭科 の目標：

【知識・技能】 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえる。

【思考力・判断力・表現力】 生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定する。

【主体的に学習に取り組む態度】 さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組む。

科目 家庭総合 の目標：

【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体的に学習に取り組む態度】
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解を深める。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現する。	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとする。

	単元	指導項目・内容	知	思	主	配当 時数
1 学 期	家庭科を学ぶにあたって 第7章 衣生活をつくる 1節 人と衣服のかかわり	・「家庭総合」を学ぶにあたって、学習の意義や内容、情報収集、レポートの書き方など学習の方法、評価の方法を理解する。 ・季節ごとの着こなしについて考える。 ・衣服の起源や歴史、風土に適した衣服について知り、人はなぜ衣服を着るのか考える。 ・衣服が持つ機能や安全性などについて学ぶ。	○	○	○	6
	3節 衣服の選択から管理まで 2節 衣服の素材の種類と特徴	・快適な衣服の特徴や機能について考える。 ・衣服の入手から処分までの流れを学び、衣生活の計画を考える。 ・洗剤・漂白剤・防虫剤などの種類について学ぶ。 ・暮らしの中での衣服素材の性能と改善について学ぶ。	○	○	○	8
	定期考査					
	6節 衣服をつくろう	・洋服と和服の違いを考える。 ・日常着を製作する。	○	○	○	14
	4節 持続可能な衣生活をつくる 5節 私たちがつなぐ衣生活の文化	・環境に配慮した衣生活について世界の動向を学び、自分たちができることを考える。 ・日本の和服をどのように継承していくか考える。 ・浴衣の着つけについて学ぶ。	○	○	○	8
	定期考査		○	○		1
2 学 期	第6章 食生活をつくる 1節 人と食物のかかわり 2節 私たちの食生活	・気候風土や宗教による食生活の違いを学ぶ。 ・世界の食について調べ、その多様性を学ぶ。 ・食事調査を通して、各自の食生活の問題点に気づく。 ・ライフステージごとの食生活の特徴を学ぶ ・日本の食文化形成を知り、郷土料理について調べる。	○	○	○	10
	定期考査					
	3節 栄養と食品のかかわり 4節 食品の選び方と安全 5節 食事の計画と調理	・自身の食事から食品ごとに含まれる栄養素を学び、バランスの良い食事について考える。 ・食品の調理上の特性を知り、適切な調理を考える。 ・旬の食材を考え、旬の時期がなぜよいか学ぶ。 ・食品衛生（食品の選択、食中毒、食品添加物）について学ぶ。 ・食事摂取基準、食品群別摂取量などを用い、家族の献立作成を行う。 ・調理を通して、基礎的な技術を身につけ、食事マナーを実践する。	○	○	○	12
	定期考査		○	○		1
3 学 期	第9章 消費行動を考える 1節 消費行動と意思決定	・主体的な消費行動について多角的に考える。 ・情報社会における生活情報について知り、その適切な活用方法について考える。	○	○	○	6
	2節 消費生活の現状と課題	・契約、多様な販売方法や支払い方法について学ぶ。 ・問題商法による被害を未然に防ぎ、早期解決する方法を考える。				
	3節 消費者の権利と責任	・消費者被害の事例を調べ、消費者の権利と責任を考える。 ・これからの社会に求められる消費者の自覚と、行動のあり方を検討する。	○	○	○	4
	定期考査					